



すべては未来のために 吉村かずや後援会

このまちに育ててもらった感謝を、行動で返します。

私は岐阜市北部・三輪で育ち、地域の皆様に多くの愛情をいただきました。その恩返しとして、誰もが幸せを感じるまちづくりに向け一つずつ形にしていきます。

地域のつながりが弱くなり、孤立が社会課題となる時代だからこそ、

④ 地域のつながりを深化させ「孤立のない社会を作る」

④ 「心と身体を育む」まちづくりの実現

④ 「行財政の抜本的見直し」と「産業の発展」

私は、**行動**、**傾聴**、**見逃さない**

④「心と身体を育む」まちづくりの実現

Action! 「本との出会いが、世界を広げる。」

三輪南小学校で「ビブリオバトル」を初開催！

9月7日、三輪南小学校の放課後子ども教室「どんぐりクラブ」で、初めてのビブリオバトルを企画・運営しました。

ビブリオバトルは、好きな本を紹介し合い、「一番読んでみたい！」と思った本に投票する活動です。

今回、子どもたちに伝えたかったのは、本を通して「生きる力」を育ててほしいということ。

本を読む「読解力」、想像する「想像力」、人の話を聞く「傾聴力」、そして自分の思いを伝える「表現力」。

本には、子どもたちの世界を広げる力があります。



私や講師の発表に加え、高学年の子どもたちも発表に挑戦。

最後は、みんなで「読んでみたい本」を選びました。

初開催でしたが、「もっと地域に広げたい」という思いが強くなりました。

いつか岐阜市に、子どもたちが本を持ち寄り、語り合える場所を。今回のビブリオバトルが、その小さな一歩です。

日々の活動を記載していますので、是非ご覧ください。

～「岐阜市政情報」～

**知っていましたか？岐阜市のこんな制度。
災害時、コミュニティバスが「無料」に。**

大雨や台風などで避難が必要になったとき、

「高齢者等避難」や「避難指示」が発令されている期間などは、コミュニティバスを避難に利用する場合、運賃が無料になります。

対象は、岐阜市が運行するコミュニティバス20路線。

「避難所までどうやって行こう？」

そんなとき、地域のコミュニティバスが避難の足になります。



避難



★ポイント

- ・災害時の避難に利用する場合が対象
- ・一定の避難情報が発令されている期間が対象
- ・対象は20路線
- ・デマンド型乗合タクシーなどは対象外

※災害時は運行状況が変わる場合があります。安全を最優先に、早めの避難を心がけましょう。

吉村かずやプロフィール



岐阜市福富天神前

1986年3月生 40歳

【経歴】

三輪中学校 卒

岐阜三田高等学校 卒

(現:岐阜城北高等学校)

中日本航空専門学校 卒

放送大学教養学部 卒

【職歴】

川崎重工(2006~2022)

三輪南農産入社(2023~)

【地域活動】

令和5・6年度 三輪中学校 PTA会長

令和8年度 三輪南自治会連合会 副会長

令和8年度 岐阜市スポーツ推進委員

三輪中学校 陸上競技クラブ外部指導者

三輪南まちづくり協議会 地域活性化部会長

三輪水防団所属 他

【私の志】

地元で恩返しがたくて、農業、自治会、PTA、まちづくり協議会、水防団など、地域の現場で活動しています。

しかし、そこで見えてきたのは、地域だけでは解決できない課題です。だからこそ私は、現場の声を市政に届け、地域と行政をつなぐ架け橋になりたい。

育てていただいた岐阜を、さらに誇れるまちにするため全力で行動します。



特集

コミュニティバスの実情をお伝えします。 「みわっこバスの事例から学ぶ」

詳しくはHPを
ご覧ください。



会いたい人に会える、移動したい場所へ行ける「地域交通」をみわっこバスを事例に考えます。

「運転免許を返納したいけれど、移動が不安。」「高校へ行きたい。でも、どうやって通えばいい?」

岐阜市北部、三輪地域で暮らしていると、「移動」の課題を身近に感じることがあります。

高校生の通学、通勤、買い物、通院、高齢者の移動、子育て世代の移動。

地域には、それぞれの「移動」があります。

私は今回、三輪地域を走る「みわっこバス」の運営協議会に参加し、現在の状況や課題について調べました。

現在、みわっこバスは1日7便、年間242日運行しています。

年間運行経費は約1,323万円。

単純平均すると、1日あたり約5万4千円弱です。

※単純平均であり、実際の1日ごとの経費を示すものではありません。

また、運行継続には収支率9%以上などの基準があり、現在は8.4%。

持続していくためには、利用者を増やす、広告・協賛を考える、

運行方法を見直すなど、さまざまな工夫が必要です。



判断期間

R8年9月時点

	令和6年度	令和7年度				令和8年度			令和9年度
	4~3月	4~7月	8~11月	12月~3月	4~7月	8~11月	12月~3月	4~3月	
本格運行	【本格運行】6回目								
判断期間				運行継続判断期間					

現在

運行継続判断期間における基準達成見込み

※ 運行基準 補助上限額：13,200,000円 収支率：9%以上

運行便数	運行距離	運行日数	運行単価	運行経費	収入	赤字額	収支率
7便/日	151.0km/日 147.4km/日	190日/年 52日/年	364円	13,233,147円	1,154,330円	12,078,817円 達成○	8.7% 未達成×

36,653円増収 する必要がある

基準未達成

【広告収入の増収や利用促進による運賃収入】(R8.10、R8.11)

①

〈広告のみで補う場合〉
月当たり 14,000円増加 が必要
(空き 96,000円/月)

②

〈乗客のみで補う場合〉
月当たり 約204人(日当たり約11人増加) が必要

でも、私はここで、「基準を満たさないから廃止。赤字だからどうする。」だけで終わらせたくありません。

この約1,323万円で、地域に何を残しているのか。そして、これからの地域に、本当に必要な「移動」とは何なのか。そこから考えることが大切だと思っています。

「コミュニティバスを残すか、なくすか」という二択ではありません。

例えば、駐輪場を整備し、自転車とコミュニティバス、路線バスを組み合わせる。

デマンド型交通を活用する。朝夕と昼間で交通の仕組みを変え、ハイブリット型を試験運行する。

大切なのは、他の地域の仕組みをそのまま持ってくるのではなく、

「岐阜市の各地域には、どんな交通の形が合っているのか?」を考えることです。

私は、地域交通を「バスの問題」ではなく、地域の暮らしを支える問題として考えます。

学校へ行く。仕事へ行く。買い物へ行く。病院へ行く。そして、会いたい人に会いに行く。

「移動できる」ということは、地域で暮らし続けるための土台です。

だからこそ、問題が大きくなってから考えるのではなく、

5年後、10年後の地域を見据えて、今から考えていきたい。

今回、私が調べた詳しい数字や他地域の事例、これから考えられる交通の選択肢、

そして地域の皆さまへのアンケート募集をホームページに掲載しています。

「コミュニティバスを残す」から、「地域の移動をつくる」へ。

地域の皆さまと一緒に、岐阜市の「移動」を考えていきたいと思っています。